

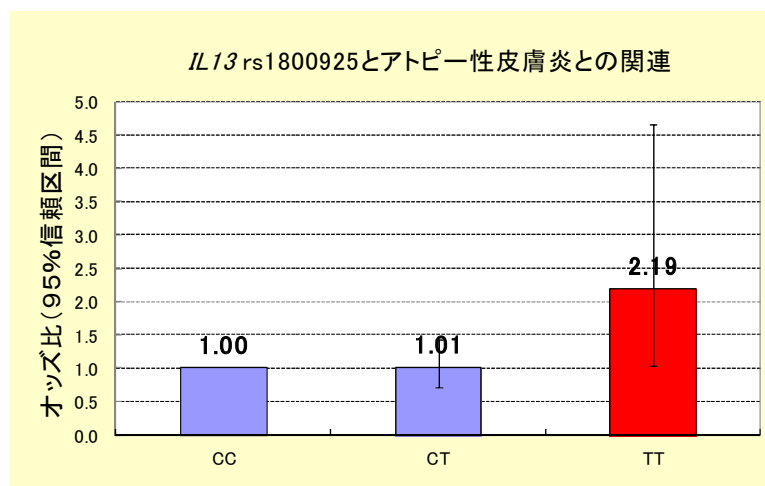
九州・沖縄母子保健研究ベースラインデータの結果 *IL13* 遺伝子多型とアトピー性皮膚炎との関連

背景：これまでいくつかの症例対照研究で、*IL13* 遺伝子多型とアトピー性皮膚炎との関連が調べられましたが、結果は一致しておりません。

方法：九州・沖縄母子保健研究に参加し、遺伝子解析研究に同意した 1492 名の母親の内、International Study of Asthma and Allergies in Childhood (ISAAC) に基づき、過去 1 年アトピー性皮膚炎と定義された 188 名を症例群としました。対照群として、ISAAC で過去 1 年アトピー性皮膚炎がなく、これまで医師にアトピー性皮膚炎と診断されておらず、European Community Respiratory Health Survey に基づき、過去 1 年喘息と定義されていない 1082 名を選びました。TaqMan 法で rs1800925 と rs20541 の遺伝子多型を調べました。年齢、居住地、子数、喫煙、教育歴を交絡因子として補正しました。

結果：rs1800925 では、CC 遺伝子型に比較しまして、CT 遺伝子型では有意な関連を認めませんでした。TT 遺伝子型では有意なリスクの高まりと関連しました。rs20541 とアトピー性皮膚炎リスクとの間に有意な関連はありませんでした。4 つのハプロタイプが存在しましたが、いずれのハプロタイプも有意にアトピー性皮膚炎と関連を認めませんでした。rs1800925 と喫煙との交互作用を調べましたが、統計学的に有意ではありませんでした。

結論：日本人若年成人女性では、*IL13* SNP rs1800925 とアトピー性皮膚炎との間に有意な関連があるのかもしれない。



出典：Miyake Y, Tanaka K, Arakawa M. *IL13* genetic polymorphisms, smoking, and eczema in women: a case-control study in Japan. BMC Med Genet. 2011; 12: 142.